

# 1. 適正配置の目的、個別施設計画の体系及び適正配置の手法

## 適正配置の目的

適正配置においては、将来的な財源不足を解消するとともに、市民・利用者の効用を高めるために、**施設総量の縮減**と同時に「量から質へ」の観点から、機能・利便性等の**公共サービスの質の向上**を図っていく必要がある。

### ①施設総量の縮減

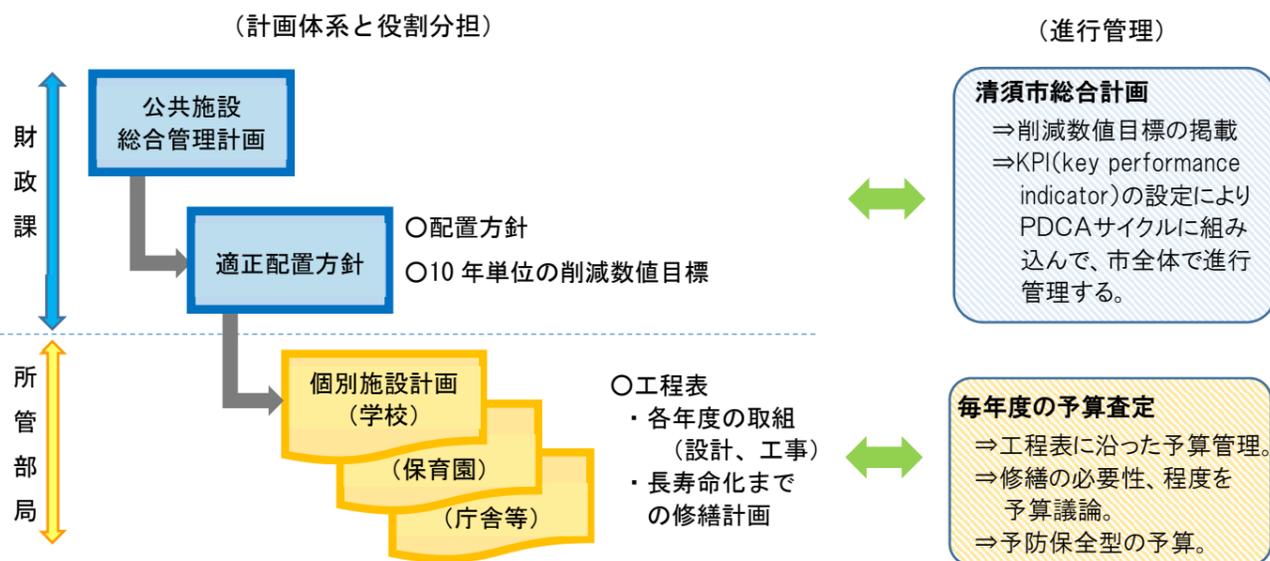
今後 40 年間で**公共施設の延床面積を 17.7% 縮減**することを目標とする。

### ②公共サービスの質の向上

現在の機能を維持しつつ、**多様な世代が参加できるコミュニティの場を創出**するなど、少子化・高齢化から生じる**将来の課題の解決を見据えた、新たな公共空間を創造**していく。

## 個別施設計画と進行管理の仕組み

個別施設計画の策定に向けては、計画体系を3階層とし、個別施設計画は所管部局が中心となって作成する。(財政課も協力して進める)。個別施設計画で定める工程表については、各所管部局が管理することとし、毎年度の予算査定において、確認、あるいは必要な措置を議論する。また、公共施設の総量、削減目標は市総合計画でも目標値を設置して管理していく。



## 適正配置を実施した場合の効果 (例)

### 複合化の事例 (にしび創造センター)

にしび創造センターに、小田井公民館(文化ホール)、小田井児童館(幼児・児童施設)、西枇杷島生きがいセンター(福祉施設)の3施設を複合化し、運営の効率化を図っている。



### 長寿命化改修の事例 (西枇杷島小学校)

建設から30年以上が経過し、屋上防水や外壁及び内部仕上げの全面的な改修を行った。あわせて、多目的教室の整備等、現代の教育に求められる機能水準の引き上げを図った。



※大規模改造では多目的教室整備等の機能強化は行わない

### 譲渡・民営化の事例 (ゆめのもりこどもえん)

公立保育園の建物を民間業者に譲渡し、改修後、2016年に認定子ども園として開園。英語やコンピュータ等の早期教育に力を入れ、民間ならではの運営が行われている。



## 適正配置の手法

公共施設の適正配置の手法として、建物や機能面での見直しが必要な施設に対して7項目、建物と機能を継続して使用する施設に対して3項目について各施設へ導入する可能性を検討する。

### <適正配置の手法例>

手法	内容
統合	同一機能を持つ複数の施設を1箇所の施設に統合する。 
複合化	異なる機能を持つ複数の施設を1箇所に複合する。 
転用	既存の建物を活用し、使い方を定める 
譲渡・民営化	建物を含めた施設の機能を地元や民間業者等に譲渡する。
規模縮小	改築時などに、その時の利用需要等に応じて現状よりも施設規模を小さくする。
改築	老朽化した建物を建て替える。
廃止	利用されていない施設や危険な施設などについて、機能を停止する。
長寿命化改修	物理的な不具合を改修し耐久性を高めることに加え、機能や性能を現代の求められる水準まで引き上げる改修のこと。
現状維持	施設の配置、規模、機能等を引き続き維持する。
大規模改造	経年劣化した建物や設備の大部分を改修し、原状回復を図る。

建物と機能を継続して使用する施設

## 2. 一次評価の考え方と評価結果

### (1) 一次評価の考え方

#### 一次評価の目的

一次評価は、施設総量の縮減に向けた公共施設の適正化を図るため、**建物の老朽化などのハード面と利用状況などのソフト面の2つの観点**から、市が保有する**全施設の相対的な位置づけを定量的に把握**することを目的として実施する。

#### 評価の方法

一次評価では、**経過年数と劣化状況によるハード評価（品質）と、利用状況とコスト状況によるソフト評価（供給・財務）**に着目し、それらの偏差値をポートフォリオグラフの2軸上にプロットすることで、**施設の状態をA～Dの4段階で分類**する。

なお、利用状況等のソフト偏差値を算出するための統計データがない施設については、ハード偏差値の大小（偏差値50を基準）に着目して分類する。

※建物の耐震性は、西枇杷島庁舎及び西枇杷島会館を除き全ての施設で基準を満足していることから、ハード面での指標から除外する。

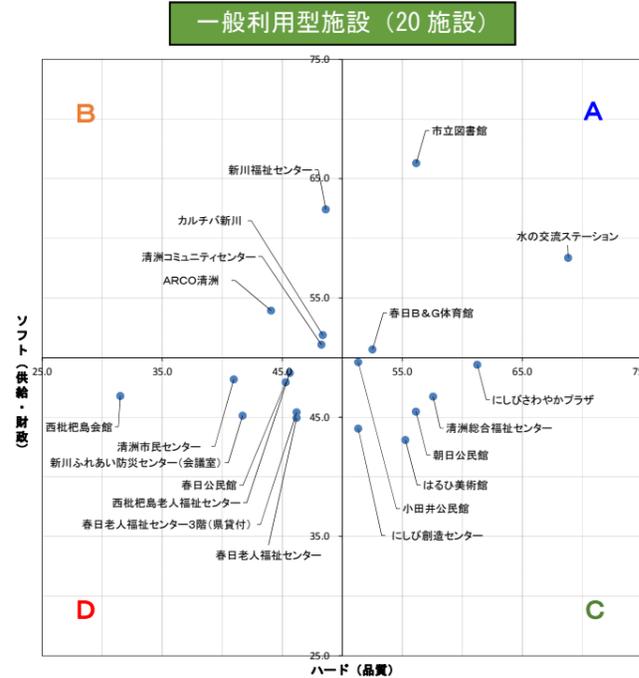
評価項目	分析項目	分析内容
ハード	品質	経過年数 木造の耐用年数を40年、それ以外を60年とし、老朽化度（経過年数÷耐用年数※1）を算出し、0～5点に点数化する。
	劣化状況	平成29年度に実施した劣化度調査による健全度判定に基づき、0～5点に点数化する。
ソフト	供給	利用状況 施設利用状況に応じた単位（面積あたりの1日平均利用者数など）をもとに偏差値を算出する。
	財務	コスト状況 施設用途に応じた単位（面積あたりのコストなど）をもとに偏差値を算出する。

#### <ポートフォリオの内容>

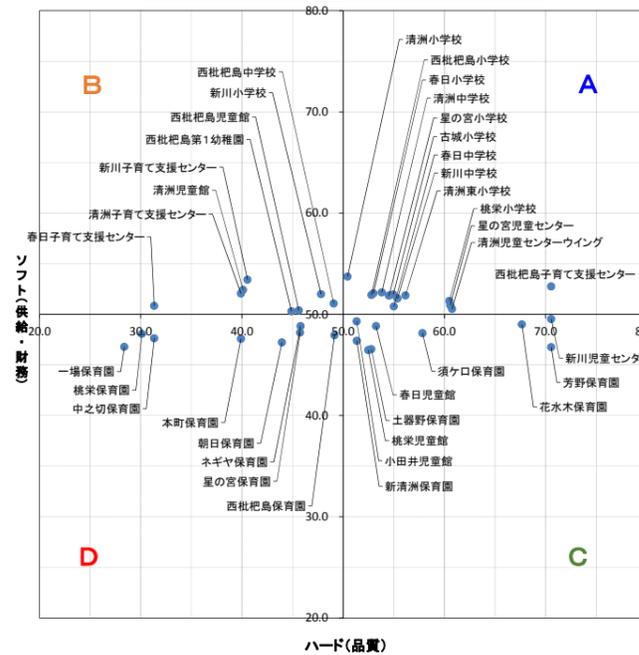


### (2) 一次評価の結果

一次評価では、二次評価、最終評価を行う前段階のスクリーニングとして、基本的な指標により様々な施設を横並びで相対的に評価することを目的とし、ハード（建物健全度など）、ソフト（利用状況、コスト状況）面でのポートフォリオ分析を行った。その際、サービスの対象が限定されている施設とそうでない施設など、「利用者」の考え方の違いにより、一般利用型施設、利用者限定型施設、義務的施設の3つに分類して評価を行った。



#### 利用者限定型施設 (38施設)



#### 義務的施設 (20施設)

ハード評価	対象施設	
50 超 (10施設)	にしびりサイクルセンター 枇杷島駅東西自由通路 西枇杷島保健センター 市役所庁舎 春日資源回収ステーション 消防団西枇杷島第1分団詰所 消防団西枇杷島第2分団詰所 消防団西枇杷島第3分団詰所 西枇杷島資材倉庫 西枇杷島防災倉庫	
	50 未満 (9施設)	清洲地域防災倉庫 新川保健センター 消防団清洲分団詰所 春日保健センター 清洲保健センター 消防団春日分団詰所 西枇杷島学校給食センター跡地倉庫 西枇杷島庁舎 西枇杷島庁舎汚水処理場

※義務的施設はハード評価のみ  
※防災倉庫（旧西枇杷島第1分団詰所）については建設年度が不明なため仮定で算出

#### 一般利用型施設でソフト評価値がない施設 (13施設)

ハード評価	対象施設
50 超 (3施設)	庄内川水防センター（みずとびあ庄内） 清洲ふるさとのやかた はるひ夢の森公園
50 未満 (9施設)	老人憩の家 西枇杷島間屋記念館 春日ランド 清洲城・天主閣 清洲城・芸能文化館 清洲城・蔵

※飴茶庵はソフト、ハードの情報がない

#### 利用者限定型施設でソフト評価値がない施設 (2施設)

ハード評価	対象施設
50 超	学校給食センター
50 未満	たんぼぼ園

一般利用型施設では、公共サービスの内容が異なる施設間の比較のため、ソフト面のばらつきが大きいのにに対し、利用者限定型は、子育て、教育系でサービス内容が同種のため、ソフト面のばらつきが少ない結果となった。学校に比べ、幼稚園・保育園のソフト評価が低いのは総じて子どもにかかる経費が、年齢が下がる程かかる傾向によると考えられる。

#### 対象施設の分類

一次評価にあたっては、施設の特徴に応じた比較を行うため、**一般利用型施設、利用者限定型施設、義務的施設の3つに分類**する。

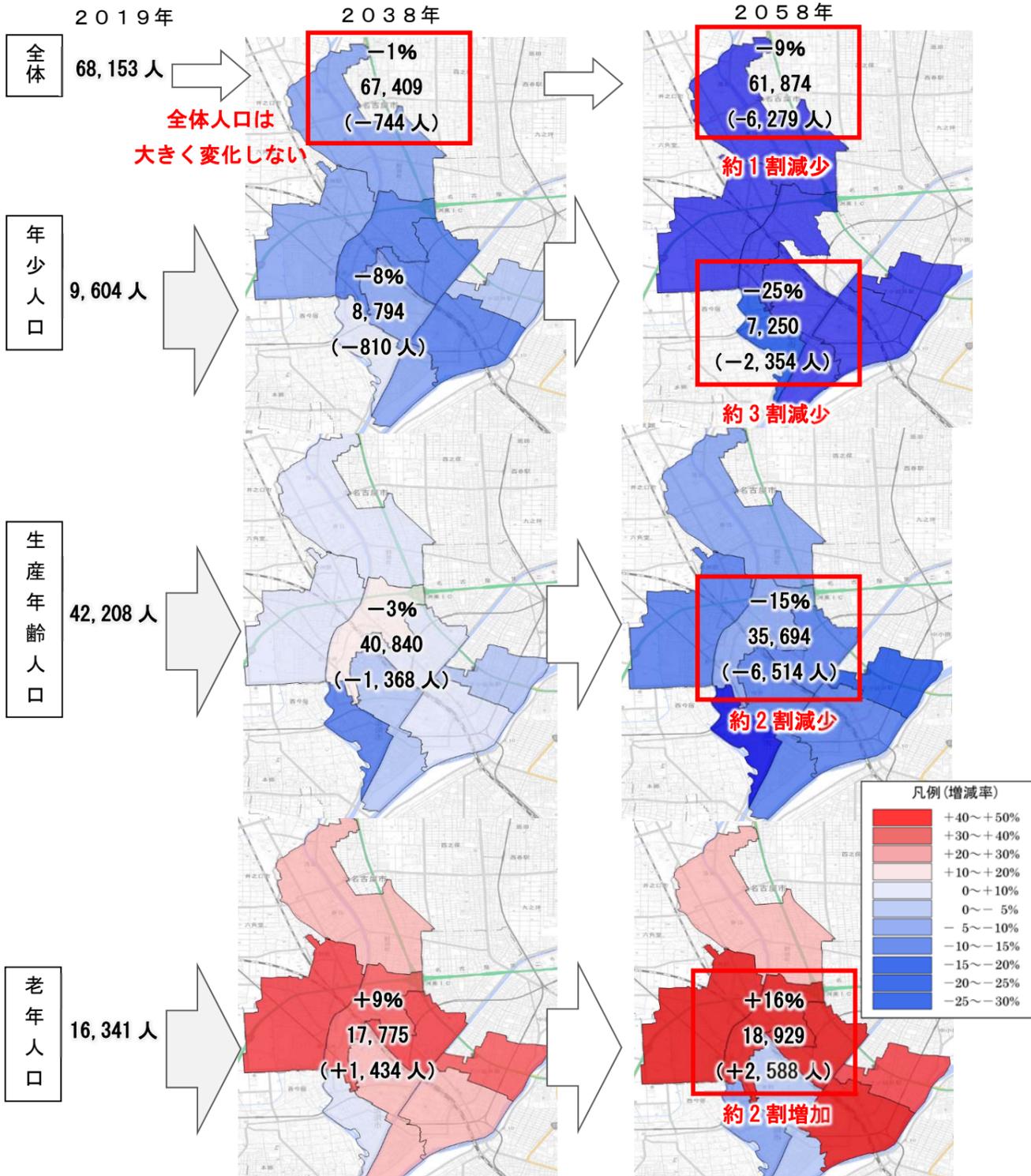
分類	施設区分	施設名
一般利用型施設	文化ホール	小田井公民館、清洲市民センター、新川地域文化広場（カルチバ新川）：【文化ホール】、春日公民館
	集会施設	西枇杷島会館、西枇杷島労働福祉会館（にしびさわやかプラザ）、水の交流ステーション、庄内川水防センター（みずとびあ庄内）、清洲コミュニティセンター、朝日公民館、新川ふれあい防災センター（会議室）
	スポーツ施設	清洲労働福祉会館（ARCO清洲）：【プール、体育館】、新川地域文化広場（カルチバ新川）：【プール】、春日B&G体育館 ＜その他＞春日ランド
	教養文化施設	西枇杷島間屋記念館、清洲城（天主閣、芸能文化館、蔵）、清洲ふるさとのやかた、飴茶庵、市立図書館、はるひ美術館 ＜その他＞はるひ夢の森公園
利用者限定型施設	福祉施設	西枇杷島老人福祉センター、清洲総合福祉センター、新川福祉センター、春日老人福祉センター ＜その他＞西枇杷島生きがいセンター（にしび創造センター）、老人憩の家、春日老人福祉センター3階（県貸付）
	小中学校	西枇杷島小、古城小、清洲小、清洲東小、新川小、星の宮小、桃栄小、春日小、西枇杷島中、清洲中、新川中、春日中 ＜その他＞学校給食センター
	幼稚園保育園	＜幼稚園＞西枇杷島第1 ＜保育園＞西枇杷島、芳野、本町、一場、花水木、新清洲、朝日、須ヶ口、土器野、桃栄、星の宮、中之切、ネギヤ ＜その他＞たんぼぼ園
義務的施設	児童館	＜児童館＞西枇杷島、小田井、清洲、桃栄、春日、 ＜児童センター＞清洲、新川、星の宮 ＜子育て支援センター＞西枇杷島、清洲、新川、春日
	保健センター	西枇杷島、清洲、新川、春日
義務的施設	庁舎等	にしびりサイクルセンター、枇杷島駅東西自由通路、市役所庁舎、春日資源回収ステーション 消防団西枇杷島第1分団詰所、消防団西枇杷島第2分団詰所、消防団西枇杷島第3分団詰所 西枇杷島資材倉庫、西枇杷島防災倉庫、清洲地域防災倉庫、消防団清洲分団詰所、消防団春日分団詰所 西枇杷島学校給食センター跡地倉庫、西枇杷島庁舎、西枇杷島庁舎汚水処理場、防災倉庫（旧西枇杷島第1分団詰所）

※以後、施設名については通称で示す

### 3. 二次評価の考え方 (1/3)

#### (1) 清須市の人口推移

清須市の人口は、2019年から2038年にかけて1%減少とほとんど変化しないが、2058年には9%減少する見込みである。人口構成別に見ると、2038年には年少人口が8%減少し、その一方で老年人口が9%増加する。2058年には、年少人口が25%減少し、生産年齢人口が15%減少する一方で、老年人口が16%増加する見込みのため、少子化・高齢化はより顕著になる。



#### (2) 公共施設の利用状況

公共施設の貸室において、稼働率が30%未満である貸室（網掛け部分）が大半を占めていることから、貸室に余剰が見られる状況である。

##### 稼働率の算出式

$$\text{稼働率} = \frac{\text{年間の利用件数}}{\text{年間のコマ数}} \times 100\%$$

(1コマ=貸出時間の最小単位(貸室によって異なる))

施設名	室名	稼働率	施設名	室名	稼働率
西枇杷島会館	ホール	45.1%	春日B&G体育館	競技場	65.9%
	会議室 I	23.0%		武道場	45.8%
	会議室 II	11.6%		ミーティングルーム	36.3%
小田井公民館	料理室	9.7%	清洲城・芸能文化館	芸能の間	2.0%
	ドレミホール	13.6%		黒木書院	0.8%
	視聴覚室	17.7%	にしびさわやかプラザ	多目的ホール	93.0%
多目的ホール	29.1%	研修室		46.3%	
清洲市民センター	ホール	25.0%		学習室	45.5%
	201集会室	34.2%		和室	43.7%
	202和室	40.3%	会議室	66.1%	
	203会議室	12.6%	ARCO清洲	ミーティングルーム1	1.0%
	302視聴覚室	13.1%		会議室(1階)	0.1%
	303会議室	27.2%		サブアリーナ	32.7%
	304研修室	41.3%		ミーティングルーム2	2.5%
	305研修室	34.0%		メインアリーナ	25.2%
	306研修室	47.0%		研修室	10.6%
	307研修室	39.1%		会議室(2階)	6.8%
朝日公民館	ホール	5.3%		多目的スタジオ	16.8%
	会議室(小)	5.3%		会議室(3階)	0.5%
	会議室(大)	10.4%		和室	0.1%
	和室(大)	4.0%	特別和室(日本間)	1.2%	
春日公民館	練習室	50.9%	射場	5.0%	
	楽屋A	18.1%	鑑的所	5.0%	
	大ホール	18.9%	春日老人福祉センター	第1会議室	12.6%
	大会議室	39.6%		第2会議室	50.2%
	中会議室	31.0%		第3会議室	17.3%
	教養室	18.6%	第4会議室	3.2%	
	研修室	48.6%	清洲総合福祉センター	第1会議室	15.6%
	料理教室	12.8%		第2会議室	55.3%
	実習室	22.9%		第3会議室	44.7%
	視聴覚室	33.7%	調理実習室	18.0%	
水の交流ステーション	研修室	48.1%	みずとびあ庄内	大会議室	56.1%
	多目的ホール	44.3%	新川ふれあい防災センター	集会室 I	36.1%
カルチバ新川	ホール	21.7%		集会室 II	47.2%
	会議室	20.5%		和室	21.3%
	ミーティングルーム	10.0%	会議室	40.7%	

##### 施設の利用状況と市民ニーズの変化

現状でも貸室の稼働率は総じて高くはない。一方、特に今後21年以降には少子化・高齢化が加速し市民ニーズ等の変化が見込まれる。そのため、将来の人口構造の変化にも対応できるような施設を目指していく必要がある。

## 4. 二次評価の考え方（2 / 3）

### （3）施設類型別の修繕・改築等に係る経費

清須市では、2021年までに小中学校の長寿命化改修が完了となるため、**学校の改築に係る経費は後期（今後21年以降）に多く分布する見込み**である。

	前 期		後 期	
	第1期（2019～2028年）	第2期（2029～2038年）	第3期（2039～2048年）	第4期（2049～2058年）
庁舎等	2023年 西枇杷島庁舎 たんぼぼ園 2026年 市役所庁舎(南館)		2041年 春日資源回収ステーション 2047年 にしびリサイクルセンター	2051年 西枇杷島庁舎 2054年 学校給食センター 2056年 市役所庁舎(北館)
文化ホール		2029年 春日公民館 2030年 小田井公民館 2035年 カルチバ新川文化ホール		
集会施設	2020年 朝日公民館 西枇杷島会館 新川ふれあい防災センター	2029年 清洲コミュニティセンター	2044年 にしびさわやかプラザ 2045年 みずとびあ庄内	2050年 新川ふれあい防災センター(会議室) 2051年 西枇杷島会館 2053年 水の交流ステーション
保健施設	2019年 清洲保健センター 2020年 春日保健センター 2022年 新川保健センター		2044年 西枇杷島保健センター	2058年 清洲保健センター
福祉施設	2019年 西枇杷島老人福祉センター 2020年 春日老人福祉センター 2022年 新川福祉センター 老人憩の家	2030年 にしび創造センター	2043年 清洲総合福祉センター	2057年 老人憩の家
歴史的施設 図書館 博物館等	2019年 清洲城・天主閣 清洲城・芸能文化館 清洲城・蔵 西枇杷島問屋記念館	2032年 清洲ふるさとのやかた 2037年 清洲城・蔵 2038年 市立図書館 2039年 清洲城・蔵 はるひ美術館	2043年 西枇杷島問屋記念館	
スポーツ施設		2034年 カルチバ新川 ARCO 清洲 体育館・プール 2035年 カルチバ新川 プール		
小学校 中学校		2035年 清洲小学校 新川小学校	2040年 西枇杷島中学校	2049年 清洲中学校 2050年 新川中学校 春日小学校 2054年 星の宮小学校 2055年 古城小学校 2057年 春日中学校
幼稚園 保育園	2020年 本町保育園 2024年 西枇杷島保育園 ネギヤ保育園 星の宮保育園 中之切保育園 桃栄保育園		2043年 土器野保育園	2050年 西枇杷島第1幼稚園 須ケ口保育園 2051年 中之切保育園 ネギヤ保育園 2054年 新清洲保育園 2055年 朝日保育園 2056年 芳野保育 2057年 星の宮保育園
幼児・ 児童施設	2019年 清洲児童館 2020年 清洲子育て支援センター 新川子育て支援センター 春日子育て支援センター	2030年 小田井児童館 春日児童館 2032年 桃栄児童館	2043年 清洲児童センターウイング 2046年 星の宮児童センター 2048年 新川子育て支援センター	2051年 春日子育て支援センター 2056年 新川児童センター 西枇杷島子育て支援センター 2058年 清洲児童館

#### 修繕・改築等に係る経費の現状

修繕・改築等に係る経費は、前期（今後20年以内）と比較して後期（今後21年以降）に集中している状況であり、特に学校の改築が大半を占めている。



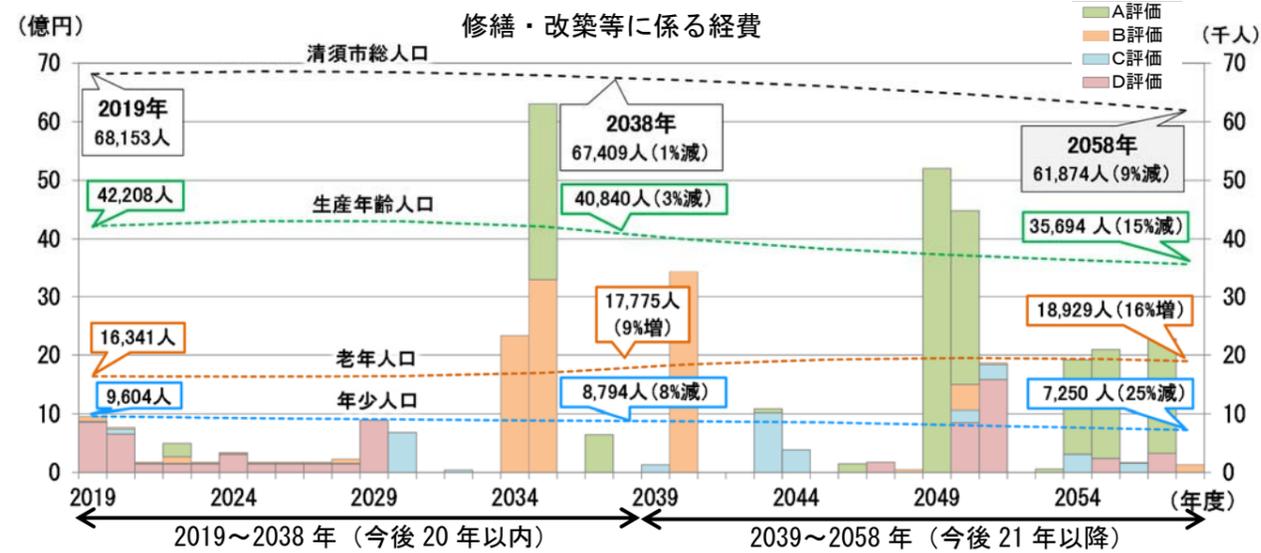
※長寿命化改修については建設後40年目、改築については建設後80年目に実施と仮定  
 ※改修の積み残し費用は、2019年から2028年の間に当てはめるものとする

## 5. 二次評価の考え方 (3/3)

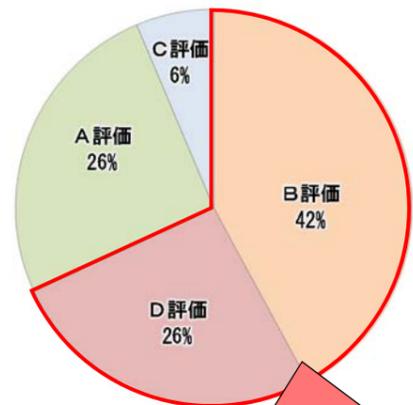
### (4) 二次評価の考え方

#### 二次評価の目的

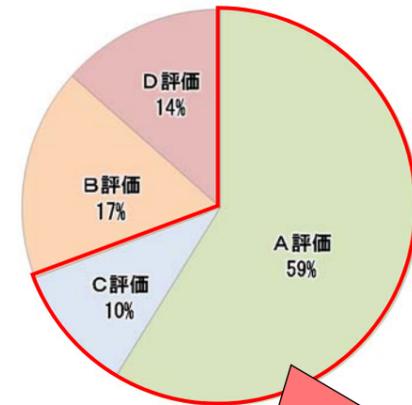
二次評価は、一次評価から得られた結果（全施設の相対的な位置づけ）に基づいて、各施設について今後の方針を設定することを目的として実施する。そこで、一次評価結果ごとの今後20年以内と21年以降の修繕や改築等に係る費用の割合を算出し、二次評価における考え方を定めた。



修繕・改築等に係る費用の割合 (今後20年以内)      修繕・改築等に係る費用の割合 (今後21年以降)



BとD評価施設の修繕・改築等に係る経費の割合が約7割と大きい



AとC評価施設の修繕・改築等に係る経費の割合が約7割と大きい

※小・中学校の長寿命化改修は実施済みまたは予定のため考慮しない

#### 二次評価の検討方針

<2019～2038年 (今後20年以内)>

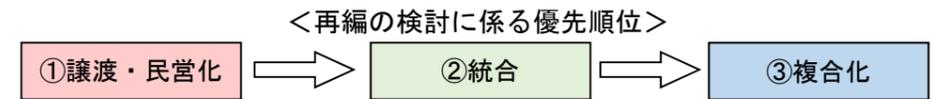
BとD評価施設は、貸室に余剰がありハード面が良好なC施設への統合または複合化を検討する。

<2039～2058年 (今後21年以降)>

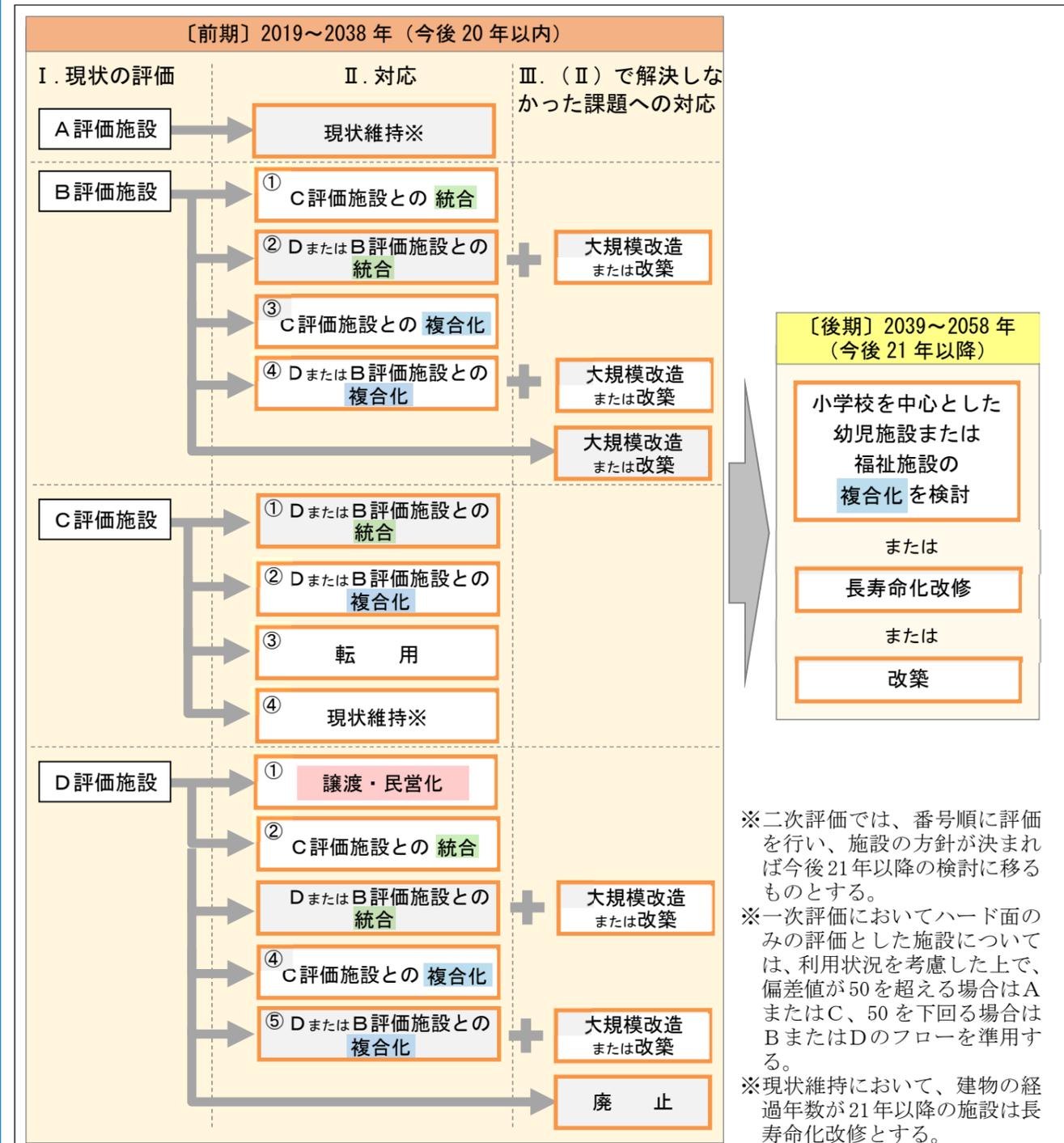
A評価施設は学校であることから、B、C、D評価施設は、人口構造の変化に合わせて、学校の改築時に学校を中心とした複合化を検討する。

### (5) 二次評価フロー

統合と複合化、民営化を比較した場合、延床面積の縮減効果が最も高いものは民営化であり、次に縮減効果が高いものは、同一機能を持つ施設を集約する統合であるため、再編は下図で示す順で検討する。



<二次評価フロー>



※二次評価では、番号順に評価を行い、施設の方針が決まれば今後21年以降の検討に移るものとする。

※一次評価においてハード面のみの評価とした施設については、利用状況を考慮した上で、偏差値が50を超える場合はAまたはC、50を下回る場合はBまたはDのフローを準用する。

※現状維持において、建物の経過年数が21年以降の施設は長寿命化改修とする。

## 6. 二次評価の評価結果（案）

### （1）二次評価の結果

先に示したフローに従って二次評価を行った結果を、計画期間の前期と後期に分けて下表に整理し、施設類型ごとの方針を示す。

施設類型	施設名	経過年数	一次評価	2019～2038年 (今後20年以内)	2039～2058年 (今後21年以降)	方針				
行政系施設	庁舎等	市役所庁舎	2	60.7	現状維持	長寿命化改修	西枇杷島庁舎は、市役所庁舎の増築に伴い庁舎機能を集約したため、用途を廃止しており、また、耐震性能に問題があることから20年以内をめどに廃止を検討する。その他の施設は、現状維持とする。			
		西枇杷島庁舎	47	31.5	廃止	—				
		たんぼぼ園	35	48.6	現状維持	—				
		学校給食センター	4	69.4	現状維持	改築				
		にしびりサイクルセンター	11	67.0	現状維持	譲渡				
		春日資源回収ステーション	17	59.6	現状維持	—				
市民文化系施設	文化ホール	小田井公民館	28	C	他施設と統合	—	ハード評価及びソフト評価が低い施設が多いため、20年以内をめどに大規模改造や長寿命化改修を実施するタイミングで他施設との統合を検討する。また、春日公民館については同地区内にある福祉施設等との複合化も検討する。			
		清洲市民センター	39	D	他施設と統合	—				
		カルチバ新川：文化ホール	23	B	他施設と統合	—				
		春日公民館	29	D	他施設と統合、複合化	改築				
	集会施設	西枇杷島会館	47	D	他施設と統合	—	20年以内に改築時期を迎える施設については他施設との統合を検討する。ハード評価が高い施設については長寿命化改修を実施して施設の長寿命化を目指す。			
		にしびさわやかプラザ	14	C	他施設と統合	長寿命化改修				
		水の交流ステーション	5	A	現状維持	長寿命化改修				
		みずとびあ庄内	13	65.8	現状維持	—				
		清洲コミュニティセンター	30	B	他施設と統合	—				
		朝日公民館	38	C	長寿命化改修	—				
新川ふれあい防災センター（会議室）	48	D	他施設と統合	長寿命化改修						
保健・福祉施設	施設 保健	西枇杷島保健センター	14	61.2	現状維持	他施設と統合	老朽化が進んでいる施設が多いため、20年以内をめどに改築を実施するタイミングで他施設との統合を検討する。			
		清洲保健センター	40	43.1	他施設と統合	長寿命化改修				
		新川保健センター	36	48.6	他施設と統合	—				
		春日保健センター	38	46.2	他施設と統合	—				
	福祉施設	西枇杷島老人福祉センター	39	D	他施設と統合	—	老朽化が進んでいる施設については、20年以内をめどに大規模改造や長寿命化改修を実施するタイミングで他施設との統合を検討する。ハード評価が高い施設については長寿命化改修を実施して施設の長寿命化を目指す。			
		清洲総合福祉センター	15	C	現状維持	長寿命化改修				
		新川福祉センター	36	B	他施設と複合化	—				
		春日老人福祉センター	38	D	他施設と複合化	—				
		にしび創造センター	28	C	他施設と統合	改築				
		老人憩の家	41	39.5	他施設と統合	—				
		春日老人福祉センター3階（県貸付）	38	D	他施設と複合化	—				
		社会教育系施設	歴史的施設	西枇杷島問屋記念館	25	37.8		改築	長寿命化改修	教養・文化施設については現状維持とし、21年以降に改築や長寿命化改修を行い、今後も維持していくものとする。西枇杷島問屋記念館は木造建築であり、老朽化が進んでいることから20年以内に改築を検討する。
				清洲城・天主閣	30	44.7		現状維持	改築	
				清洲城・芸能文化館	30	44.7		現状維持	改築	
清洲城・蔵	30			29.8	現状維持	改築				
清洲ふるさとのやかた	26			53.2	現状維持	改築				
飴茶庵	-		-	現状維持	—					
図書館	市立図書館		21	A	現状維持	改築				
博物館等	はるひ美術館		19	C	現状維持	長寿命化改修				

（※）一次評価の判定区分

区分	A	B	C	D
ハード	○	△	○	△
ソフト	○	○	△	△

○：偏差値≥50

△：偏差値<50

＜施設類型ごとの施設圏域＞

施設区分	利用圏域
文化ホール（4施設）	市全域
集会施設（7施設）	市全域
スポーツ施設（4施設）	市全域
教養・文化施設（8施設）	市全域
小・中学校（12施設）	小・中学校区

施設区分	利用圏域
幼稚園・保育園（14施設）	市全域
児童館（12施設）	小学校区
福祉施設（9施設）	中学校区
保健センター（4施設）	市全域
庁舎等	市全域

施設類型	施設名	経過年数	一次評価	2019～2038年 (今後20年以内)	2039～2058年 (今後21年以降)	方針			
レクリエーション施設	スポーツ施設	ARCO 清洲：プール	24	B	他施設と統合	改築	春日B&G体育館以外の2施設については老朽化が進んでいるため、20年以内をめどに大規模改造を実施するタイミングで他施設との統合を検討する。		
		ARCO 清洲：体育館	24	B	現状維持	改築			
		カルチバ新川：プール	23	B	他施設と統合	—			
		春日B&G体育館	36	A	現状維持	改築			
学校教育系施設	小学校	西枇杷島小学校	31	A	現状維持	他施設と複合化	全体的に建築後の経過年が長いものの、長寿命化改修を実施した施設が多いため現状維持とし、小学校については21年以降に改築を実施するタイミングで他施設との複合化を検討する。ただし、新川小学校については早期に改築時期を迎えるため、20年以内に他施設との複合化を検討する。		
		古城小学校	43	A	現状維持	他施設と複合化			
		清洲小学校	63	A	現状維持	他施設と複合化			
		清洲東小学校	38	A	現状維持	他施設と複合化			
		新川小学校	63	B	他施設と複合化	他施設と複合化			
		星の宮小学校	44	A	現状維持	他施設と複合化			
		桃栄小学校	28	A	現状維持	他施設と複合化			
		春日小学校	49	A	現状維持	他施設と複合化			
	中学校	西枇杷島中学校	58	B	現状維持	改築			
		清洲中学校	49	A	現状維持	改築			
		新川中学校	48	A	現状維持	改築			
		春日中学校	41	A	現状維持	改築			
		子育て支援系施設	幼稚園	西枇杷島第1幼稚園	48	B		改築	長寿命化改修
			保育園	西枇杷島保育園	34	D		民営化	—
芳野保育園	2			C	現状維持	—			
本町保育園	38			D	民営化	—			
一場保育園	51			D	民営化 (現在民営化へ移行中)	—			
花木水保育園	7			C	現状維持	長寿命化改修			
新清洲保育園	44			C	現状維持	改築			
朝日保育園	43			D	民営化	—			
須ヶ口保育園	8			C	現状維持	長寿命化改修			
土器野保育園	15			C	現状維持	長寿命化改修			
桃栄保育園	48	D		民営化	—				
星の宮保育園	41	D	民営化	—					
中之切保育園	47	D	民営化	—					
ネギヤ保育園	47	D	民営化	—					
幼児・児童施設	西枇杷島児童館	39	B	改築（H32に移動予定）	他施設と複合化	西枇杷島子育て支援センター以外の子育て支援センターについては20年以内に改築時期を迎えるため、他施設との統合を検討する。児童館については21年以降に同地区の小学校が改築及び長寿命化改修を実施するタイミングで、同地区の小学校との複合化を検討する。			
	小田井児童館	28	C	現状維持	他施設と複合化				
	清洲児童館	40	B	改築	他施設と複合化				
	桃栄児童館	26	C	現状維持	他施設と複合化				
	春日児童館	28	C	他施設と統合	他施設と複合化				
	清洲児童センターウイング	15	A	現状維持	他施設と複合化				
	新川児童センター	2	C	他施設と統合	他施設と複合化				
	星の宮児童センター	12	A	現状維持	他施設と複合化				
	西枇杷島子育て支援センター	2	A	現状維持	他施設と複合化				
	清洲子育て支援センター	38	B	改築	他施設と複合化				
新川子育て支援センター	50	B	他施設と統合	—					
春日子育て支援センター	47	B	他施設と統合	—					
新川子育て支援センター	50	B	他施設と統合	—					

※消防団詰所及び資材・防災倉庫については、消防団組織等の観点に基づき、別途定める。

※春日グラウンド、西枇杷島汚水処理場、枇杷島駅東西自由道路は、土木インフラ施設として別途計画等を定める。

※一次評価が数値になっている施設は、ソフト偏差値が計算できないため、ハード偏差値でのみ評価を行った。